

「 「 「 「  
「 「 「  
「 「  
「

♪ ジョイコン NEWS ♪

第 20 号 2016 年 10 月 18 日

今年のノーベル医学・生理学賞に東工大の大隅良典・栄誉教授が単独で選ばれました。「オートファジー（細胞内部の自食作用）の発見」が受賞理由です。

受賞決定後の記者会見や講演で印象深いのは、「今後、日本人がノーベル賞を受賞するのは非常に難しくなっている」と、短期間に研究成果を求める現状や政府の研究費配分のあり方など、研究環境の悪化を憂える言葉でした。

それでは、「♪ジョイコン NEWS ♪」（第 20 号）をお届け致します。

【もくじ】

- 【1】 次回コンサートのご案内
  - ◆ 第 24 回コンサート
- 【2】 今後の予定（先取り情報）
  - ◆ 第 25 回コンサート
  - ◆ 第 26 回コンサート
- 【3】 ホロヴィッツを虜にした 2 台のスタインウェイ
- 【4】 コンサートのアンケートから

【1】 次回コンサートのご案内

■ ■ 第 24 回コンサート ■ ■

- ◇ 2016 年 11 月 20 日（日曜日）14:00 開演（13:30 受付開始）
- ◇ 出演：須藤千晴（ピアノ）
- ◇ プログラム（予定）
  - ◆ シューマン（リスト編曲）：献呈
  - ◆ ショパン：幻想即興曲 嬰ハ短調 Op. 66
  - ◆ ベルク：ピアノソナタ Op. 1
  - ◆ 須藤千晴：カメリア（Camellia）
  - ◆ ショパン：24 の前奏曲 Op. 28 より抜粋
  - ◆ カプースチン：24 の前奏曲 Op. 53 より抜粋 他
- ◇ 料金：大人・高校生 2,000 円、中学生以下 1,000 円
- ◇ 会場：大倉山記念館ホール

第 24 回ジョイフルコンサートは『名曲と迷宮の旅へ～親しみのある曲から かくれた名曲まで 迷宮の旅へ出かけましょう！』と題して、お届けします。

\*\*\*\*\*  
演奏者からメッセージが届いています  
\*\*\*\*\*

私のオリジナル作品、そしてショパンからジャズスタイルのカプースチンの作品まで、素敵な曲を取り揃えてお待ちしております。  
そして、地元横浜でソロコンサートをさせて頂けることを私自身とても楽しみにしています！

\*\*\*\*\*

今回のジョイフルコンサートはピアノ独奏です。  
皆様チラシをご覧になりましたか？  
演奏者の須藤千晴さんの写真をご覧になってどのように思われたでしょうか？  
恐らく美意識や女子力の高い方ではないかと思われた方も多いと思います。

今回演奏予定の曲は何とも言えない雰囲気があっっておしゃれです。  
あまり馴染みのない曲もあるかもしれませんが、個人的にはこういう方はこう  
いう選曲をするんだと思わず感心してしまいました。  
どうぞお楽しみになさってください。

#### ☆アルバン・ベルク/ピアノソナタ Op. 1

ベルクはウィーンで裕福な商家の子として生まれ、音楽や文学を幼い頃から  
学びました。15歳の頃から独学で作曲を学ぶようになります。  
兄がベルクの作品をシェーンベルクに持ち込んだことがきっかけで、シェーン  
ベルクに師事するようになりました。共に無調音楽、12音技法を確立し、現代  
音楽を特徴づける概念の基礎を作ることになっていきます。

最初は公務員になったにも関わらず、作曲に打ち込むために2年で辞職し、音楽院  
に進みます。第1次世界大戦で兵役に服したり、ナチスドイツに退廃的な音楽と  
みなされ、演奏できなくなったり、しかも最後は虫刺されが原因で腫瘍ができ、  
50歳で亡くなるなど結構波乱に満ちた生涯だったと言えます。

それまでの音楽は長調、短調による和声、または何か中心音が存在するという曲が  
主流でしたが、意図的ではないかもしれませんが、ロマン派後期から表現の可能性  
を追求した結果、形式にとらわれない曲の作り方となっていき、調性が崩れて  
いったと言えます。激しさを表すための不協和音の連打などこれまであえてやらな  
かったことをするようになりました。  
それをシェーンベルクは「不協和音の解放」と言ったそうです。  
これも余り度が過ぎると一般的には受け入れられにくいと思います。

このような無調音楽から発展したものが12音技法です。オクターブ内の12の  
音を均等に使うことで調の束縛を離れようとする技法だそうです。  
12音を1つずつ使った音列を作り、その音列の順で各音が現れなければならない、  
反復して用いることができないそうです。ただし和音で反復することはできます。  
形式にとらわれないために始まったものが、でも完全に自由にはならないところが  
興味深いです。

なかなか理解できないですが、このことを少し頭に入れてベルクの曲を聴くとまた  
印象が変わるかもしれません。

#### ☆ピアノソナタ Op. 1

通常、ピアノソナタは3楽章または4楽章から成り立っていますが、ベルクのソナ  
タは1楽章しかありません。  
シェーンベルクの元での卒業制作として作られ、ベルク自身は第2楽章も作るべき  
か悩んでいたそうですが、シェーンベルクの助言で1楽章のみにしたそうです。  
余りにも革新的な作品のため。初演では聴衆が暴動を起こしたという話が残ってい  
ます。音楽会で聴衆が暴動ってどういうことなんでしょうか？  
ブーイングがひどいとか物が飛んでくるとか？

確かに聴いていると、とても不思議というかミステリアスな感じの曲です。不協和  
音の1歩手前の音がどんどん流れていきます。  
百聞は一見に如かずではないですが、聴いてみるのが1番です。  
皆様はどう感じられるでしょうか？是非感想をお聞きしたいです。(A.N)

#### ■予約申し込みはこちら

ホームページ：<http://www.ohkurayama-joycon.com/>

予約専用電話：080-8424-5108

【2】今後の予定（先取り情報）～「予約申し込み」はまだ受付けておりません

#### ■■第25回コンサート■■

◇2017年1月15日（日曜日）

◇出演：景山梨乃（ハープ）

★日本ハープコンクール第1位、USA国際ハープコンクール第2位他多数受賞。  
国内外のオーケストラとコンチェルトを共演。ベルリンフィルカラヤンアカデミー  
修了。2016年ミュンヘンARD国際音楽コンクール第3位。  
現在は東京交響楽団首席ハープ奏者。

◆予約受付開始日：2016年11月21日（月曜日）

---

■■第26回コンサート■■

◇2017年3月19日（日曜日）

◇出演：会田莉凡（ヴァイオリン）

---

【3】ホロヴィッツを虜にした2台のスタインウェイ

コンサートではほとんどの演奏家が自分の楽器を持ってきて演奏するのに対し、  
ピアニストは演奏会場に設置されているピアノで演奏しなければなりません。

かつて、自分専用のグランドピアノを飛行機で運んで演奏しているピアニストが  
いました。ウラディミール・ホロヴィッツ（1903～1989）です。

ホロヴィッツは20世紀を代表するウクライナ生まれのアメリカのピアニストです。  
気難しくてわがままでしたが、超絶技巧の持ち主で、個性的なパワフルな演奏を  
することから、全てが許されてしまうような本物の天才でした。ピアノに関しても  
好みははっきりしていて気に入ったピアノしか弾かないのは有名な話でした。  
お気に入りの専用のピアノは1912年製のニューヨーク・スタインウェイCD  
75。ホロヴィッツは1983年と1986年の2回来日公演をしています、  
その時もこのピアノを持ってきました。

2度目の来日の1986年、ホロヴィッツが宿泊していたキャピトル東急ホテルの  
レストランに1887年製のローズウッド（ピアノのボディが濃いワインカラー）  
のスタインウェイが置いてありました。ホロヴィッツはそのピアノに興味を示し  
「このピアノがあるならニューヨークからわざわざスタインウェイを運んでこなく  
てもよかった！」と言って、突然のサロンコンサートを2時間も行ったそうです。  
このローズウッドは、かつてニューヨークのカーネギーホールに置いてあったピア  
ノで、ラフマニノフやパデレフスキ等、往年の大ピアニスト達が弾いてきた楽器  
です。

ホロヴィッツを虜にしたこの2台のスタインウェイが現在、東京の渋谷のタカギ  
クラヴィア松濤サロンにあります。  
そして、ホロヴィッツ専用だったニューヨーク・スタインウェイCD75は日本の  
若手ピアニスト反田恭平（そりたきょうへい）さん（22歳）に受け継がれました。  
彼は2015年8月のデビューCDも2016年1月のサントリーホールの  
デビューリサイタルもこのスタインウェイを使用しました。  
枯れたボディは良く鳴り、ピアノッシモの音の伸びがすばらしく、低音域から最高  
音域に至るまで驚くほど音量バランスが良いそうです。  
現代のスタインウェイの音色と一味違うヴィンテージ・スタインウェイの音色。  
弾きこなすのも大変難しいそうです。是非この音色を1度は聴いていただきたい  
ものです。（のん）

---

【4】コンサートのアンケートから

★前回のジョイフルコンサート（9月18日公演）、  
『まるごと！ テノールの魅力～オペラアリアの数々と昭和の歌・我が心ゴール  
デンセレクト』は如何でしたか？

アンケートの満足度では、「大変良かった」69%、「良かった」17%、「普通」6%  
で、残りは「無回答」の8%でした。

自由記入欄（ご感想など）には、

『声量にビックリ。鼓膜が震えていた』『昔なつかしい歌 オペラ風？に唄われると、新たに楽しく聴かせていただきました』『ポップスや歌謡曲と呼ばれるような曲目も歌い手と伴奏者の力でこれほど美しく奏でられるものかと感心しました』『ポピュラーをもっと少なく、クラシックの曲がもっと多い方が良かった』『大倉山コンサートは楽器、演奏者、曲目等バラエティーに富み、毎回新発見があり楽しみです』など。

一方、『海外歌曲は、字幕や対訳の配布でもあると良い』のご感想もありました。運営の検討課題にしたいと思います。

---

#### 【編集後記】

---

10月になっても真夏日になるなど、長引いていた残暑も終わって、ここ横浜でもようやく秋らしくなってきました。日中も快適に過ごせる気温となり、紅葉前線も東北まで南下してきているようです。それぞれの“○○の秋”を楽しみたいですね。（お）

---

※このメールマガジンは、  
大倉山ジョイフルコンサートのアンケート等で  
「コンサート情報」を希望された方に配信しております。

#### ■演奏会予約申し込み

次回予約申し込みはこちら

ホームページ：<http://www.ohkurayama-joycon.com/>

予約専用電話：080-8424-5108

#### ■バックナンバー

メールマガジンのバックナンバー（PDFファイル）はこちら

ホームページ：<http://www.ohkurayama-joycon.com/>

#### ■配信停止／アドレス変更

メールマガジンの登録、配信停止、アドレス変更はこちら

[info@ohkurayama-joycon.com](mailto:info@ohkurayama-joycon.com)

.....  
発行：大倉山ジョイフルコンサート実行委員会

Eメール [info@ohkurayama-joycon.com](mailto:info@ohkurayama-joycon.com)

携帯電話 080-8424-5108

URL <http://www.ohkurayama-joycon.com/>  
.....